

35体制攻撃の一環＝木原線廃止を許さず 地域の中軸を担って闘う

12/19 勝浦支部大会

日刊 動労千葉

81.12.22
No.927

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・公衆）四三三（22）七二〇七

勝浦支部通信員発

勝浦支部が四回定期大会は、12月19日、勝浦運転区講習室において行われました。大会には、本部より岡川委員長、水野副委員長、鶴岡特執が、部外より茂原労金、全労災の代表が参加し、議長に秋元前乗務員会長を選出し、全代議員とそれを上まわる傍聴者によって活発な討論の中から、35万人体制粉碎に向けた一年間の方針を確立しました。

『自らの取場は、自らで中さう』
—— 湊田支部長あいさつ ——

昌頭湊田支部長は、「マル生闘争を含めた永い闘いのつみ上げにより今日の労働条件を獲得してきた。国鉄当局は、35万人体制に向けて我々の積み上げてきた既得権を剝奪してくることは必至である。一人一人の闘いなくしては今日の労働条件の確保はできない。自分達の職場は自分達で守ろう」とあいさつをされました。

続いて来賓の奥川委員長は、激動する社会情勢と労戦「統一」にふれ、「なによりも現在の政府・支配層の反動化の中で戦争に反対し、軍事大国化に反対することの重要性が語られ、また動労千葉の闘いについて「将棋」にたとえられて、「動労千葉は、『金』とか『銀』という駒ではなく『桂馬』くらいかもしらない。しかし、その『桂馬』の闘いが全国の『歩』を勇気づけ、『王』を追いつめて行く」と、現在の動労千葉の存在を位置づけるありさつがなされました。

活発な討論を 展開

執行部より、一年間の経過と闘う方針提起があり、それについて代議員より「3月ジェット闘争の評価について」「解雇者4名の裁判闘争の展望について」「動労大改革——総連合構想について」「労働戦線「統一」について」「木原線廃止反対闘争のとりくみ方」「支援基金一人一口獲得運動について」「新採獲得について」等々の質疑・意見が出され、水野副委員長より動労千葉の闘った3月闘争の意義と不当処分に対する闘いと展望について、又、動労大改革——総連合構想については、労戦「統一」と合せて全国の闘う労働者の結集が話されました。「支援基金一人一口獲得運動については、財政的にはもとより、運動論としてとりくむことの重要性について明確な答弁がなされ確認されました。

支部よりは、「木原線廃止に向けた闘いについては、35体制攻撃の一環としてと



らえ反撃する。住民の組織化のための教宣活動を強化する」「新採獲得については、情報を集中化し新採対策委員会を設置して対応するとの答弁をへて満場一致で運動方針を決定しました。

中村栄一氏に感謝状
永年の功績たたえ



又、今年度をもって特選される中村栄一氏に対し、永年、支部役員、乗務員分科会長として今日の勝浦支部を築き上げてきた功績をたたえ、感謝状がおくられ、最後に湊田支部長の力強い団結ガンバローにより閉会しました。